

つくだ	学校だより No.5	全校児童数466名
	青森市立佃小学校	男子 223名
	令和3年7月15日発行	女子 243名
	◆教育目標◆	
	あかるく・かしこく・たくましく	

直接体験することの大切さ・尊さ

校長 山田 彰利

7月7日から、6年生と、2泊3日の函館修学旅行に行って来ました。保護者の皆様のご理解とご協力には改めて感謝いたします。子供たちはどこへ行っても節度のある行動をとることができており、さすが6年生と感じた3日間でした。

さて、そんな中で印象に残っていることがあります。

1日目の夜、函館山は山頂が雲に隠れ、山頂からの夜景は全く見られませんでした。仕方なく帰りのバスに乗ったのですが、途中、八合目を下った辺りから雲は晴れ、時折、木々の間からそれは美しい夜景が見えてきたのです。ほんの一瞬一瞬のことでしたが、見えるたびに、その瞬間バスの中では大喝采でした。解散式の感想発表で、一番の思い出にあげた子もいたほどです。



コロナ禍の下、リモート〇〇、とか、バーチャル〇〇といったものが盛んに話題になっています。昨年度は、修学旅行をバーチャルで提供した旅行会社があったこともニュースで取り上げられました。世の中の状況がそうしたものを生み出しているのですが、今回、修学旅行に行って、特に、函館山の夜景を体験して、やはり生の体験に勝るものはないと感じました。

今の時代、夜景だけでしたら画像でも映像でも見ることができます。ライブカメラもあります。でも、林の間からきらめきが目に飛び込んできたあのときの感激・感動、そしてバスの中の不思議な一体感は、やはり生ならではだと思いました。そういえば、函館北斗駅を出て北海道に第一歩を刻んだ瞬間に、「ああ、なんかにおいが違うように気がする。」と言った子がいました。これだって現地に立ったからこそその言葉です。

テレビやゲーム、パソコンなどでの間接体験が増えている今の子供たち。多くのことがバーチャル体験できる時代です。しかし、ある調査では、「昆虫を捕まえたことがありますか。」という問いに、約半数の小学生が、「殆どない」と回答したそうです。直接、生の体験をする機会がどんどん失われているのです。

こんな研究結果もあるそうです。様々な直接体験が多い子ほど、大人になってからの「自尊感情」「共生感」「意欲・関心」「規範意識」「人間関係能力」「文化的作法・教養」といった能力が高い、というのです。特に、低学年は友達や動植物との関わり、高学年から中学生までは地域や家族との関わりが大切だそうです。家族との関わり、これも体験の一つになるのですね。

いよいよ夏休み、教室を離れる33日間です。コロナ禍での制限はありますが、それでもたくさんの体験のチャンスがあります。この機会に「夜に星をゆっくり見た」「太陽が昇るところや沈むところを見た」「動植物と触れ合った」「たくさん友達と遊んだ」「家事をたくさんやった（掃除も草取りも立派な直接体験です!）」などの身近な直接体験の機会を、是非設けてあげてください。

8月24日、少したくましくなった子供たちと会えることを期待しています。

4月からの3ヶ月間、学校の教育活動へのご理解とご協力、大変ありがとうございました。